

“今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

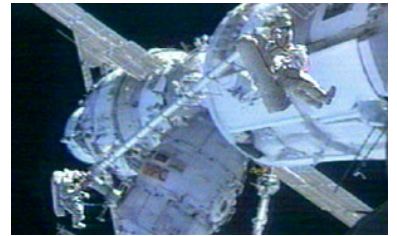
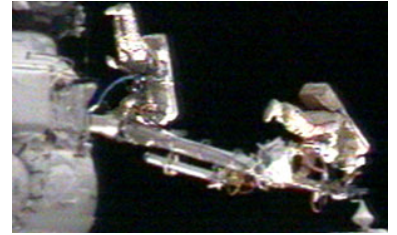
※特に断りの無い限り日付は日本時間です。

- ★最初のISS構成要素打上げから2755日経過しました
- ★第13次長期滞在クルーのISS滞在は66日経過しました
- ★ISS動向

第13次長期滞在クルーのパベル・ビンogradフとジェフリー・ウィリアムズ両宇宙飛行士は、6月2日午前7時48分から午後2時19分の間、ISSの船外で6時間31分にわたる船外活動を行い、ISSのロシアセグメントと米国セグメントの機材を修理、回収、交換しました。

この船外活動では、エレクトロン(酸素発生装置)用の新しいノズルを「ズヴェズダ」(ロシアのサービスモジュール)外壁に取り付けました。このノズルはエレクトロンから発生する水素を宇宙空間に排出するためのもので、このノズルが詰まっていたことからエレクトロンはたびたび停止していました。現在停止中のエレクトロンは米国時間6月7日に再起動する予定です。

その後、ズヴェズダ後方のアンテナ設置状況の写真撮影、“Kromka”と“Biorisk”という実験装置の回収、モービルベースシステム(MBS)の故障したビデオカメラの交換作業などを行いました。MBSは、トラスの上を行き来してISSのロボットアームを移動させる台車上に取り付けられています。回収した実験装置は研究のため地上へ持ち帰る予定です。



ロシアの伸縮式ブームを使って作業を行うビンogradフ宇宙飛行士(写真右)とウィリアムズ宇宙飛行士(写真左)(提供:NASA)

“スペースシャトル・ディスカバリー号(STS-121)準備状況”

今年7月のSTS-121打上げに向けて、NASAケネディ宇宙センター(KSC)の射点ではディスカバリー号の電源を入れてシステム試験が行われています。

NASAは米国時間5月31日にSTS-121の準備状況について記者会見を行いました。この会見においてスペースシャトル・プログラムマネージャのウェイン・ヘイル氏は、改良した外部燃料タンク(ET)から断熱材の落下を完全に防止することはできないが、ディスカバリー号やクルーに及ぼす危険性は許容範囲内であると述べ、STS-121の準備状況は7月の打上げに向けて順調であることを説明しました。

同6月8日にはSTS-121ミッションの概要を説明する記者説明会がNASAジョンソン宇宙センター(JSC)で行われる予定です。この模様はNASA TVで生中継されます。

●NASA TV <http://iss.sfo.jaxa.jp/gallery/video/nasatv/index.html>

“トピックス”

★STS-121ミッション概要

STS-121ミッションは、スペースシャトル「ディスカバリー号」によるNASAのスペースシャトルミッションであり、ISS組立てのフライト名ではULF1.1(Utilization Logistics Flight)フライトと呼ばれています。

●主な特徴

- ・ディスカバリー号32回目(スペースシャトル通算115回目)のフライトです。
- ・ISSに実験装置や補給物資を運ぶことを目的とした利用補給フライトです。
- ・野口宇宙飛行士が飛行したSTS-114(LF1)ミッションに続き2回目の飛行再開フライトであり、改良した外部燃料タンク(ET)の検証、センサ付き検査用延長ブーム(OBSS)を使った軌道上点検技術の検証や耐熱タイルの修理技術検証を行います。
- ・欧州宇宙機関(ESA)のトーマス・ライター宇宙飛行士がISSに到着することで、2003年5月4日に帰還した第6次長期滞在クルー以来の3名体制となります。

●STS-121ミッション概要

<http://iss.sfo.jaxa.jp/iss/ulf1.1/index.html> (JAXA: 日本語)

http://www.nasa.gov/mission_pages/shuttle/shuttlemissions/sts121/index.html (NASA: 英語)



STS-121クルー集合写真

左から:ステファニー・ウィルソン(MS3)、マイケル・フォッサム(MS1)、スティーブン・リンゼイ(船長)、ピアース・セラーズ(MS4)、マーク・ケリー(パイロット)、トーマス・ライター(MS5)、リサ・ノワック(MS2) (提供:NASA)

※MS=ミッションスペシャリスト

問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター

ホームページ <http://iss.sfo.jaxa.jp/>

Eメール kibo-pao@jaxa.jp

ウィークリーニュースメーリングサービス登録 <http://iss.sfo.jaxa.jp/weekly/index.html>

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。